

令和5年度 第2回田原市まち・ひと・しごと創生連携会議 委員意見要旨 令和5年11月22日開催

(1) 田原市人口ビジョン改訂(案)について

- ・了承。

(2) デジタル田園都市国家構想 田原市総合戦略(案)について

1 雇用の創出・就労促進

(1-1 農業後継者・新規就農者の確保・育成と労働力の確保)

- ・先端技術やスマート農業という言葉は、最近よく聞かれるようになってきているが、農業者が高齢化している中で、それを覚えきれぬのかという不安はある。
- ・一方で、若い人の就農支援をしていくために、このような新しい取組は必要だとは思いますが、お金が多く必要となるため、市からの支援も必要である。
- ・退職した後に、農業に挑戦したいという人は一定以上いると思うため、(希望者との)マッチングが進めば、何か活性化に繋がるのではないかと考える。
- ・臨海地区と内陸部とをどう結んでいくかは大きな課題なので、そこに働くことと人生の過ごし方みたいなものがジョイントできていけば、田原ならではのマッチングを作ることできると思う。
- ・トヨタを始め、臨海の企業との連携が大事である。
- ・ものづくりの発想や考え方、技術を導入することで、生産性をかなり上げることが可能である。
- ・ものづくりの企業とコラボすると、新しい取組が生まれるような気がするので、是非そういうことを進めていただくと良い。
- ・デジタルを活用する時の目標像とこの地域の独自性というところを明確にして取り組んでいけると、大変面白くて魅力ある取組となる。

(1-5 観光地域づくり)

- ・(田原に)来ていただいた方の意見を、どうやって収集するかが大事である。
- ・(観光客の)数が多ければ良いと思うのではなくて、満足してリピーターになるような仕組みが大事である。
- ・デジタルを用いて、(観光客の意見を)収集できるような仕組みが必要である。
- ・多言語化を進めていただいていることは、大変ありがたい。
- ・インバウンドは、「台湾人が思う、旅行したい国の9割が日本」なので、台湾をターゲットにするべきだという話を聞いたが、日本から台湾に向けて発信されている観光案内などが日本語であり、日本へ行こうとしているのに、日本語が読めないから行けないとかいうような話も伺っている。
- ・日本人にしても、新幹線で豊橋駅を降りたら豊橋とか蒲郡だけに行って、田原を回ろうかという方が少ないと思うので、ほの国観光ビューローと連携して、東三河全体などの(広域な)周遊マップを作って、その中に田原を盛り込んでいくことが大事である。
- ・産業も一つの観光資源になり得る。

2 定住・移住促進

(2-4 ふるさと教育等の充実)

- ・特に地方都市は、これから教員の確保も難しくなるため、本気でもっとオンラインによる総合教育を積極的にやらないといけない。

3 若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望実現

(3-1 結婚・出産支援)

- ・イベントは、小規模で開催するケースが多いが、あまりイベントが多すぎると、次もまたあるからと、1回のチャンスをものにしようという気運が無くなってしまふのが心配である。
- ・共通の活動をする若い男女が集まれるサークルの様に、イベント以外にも男性と女性が出会う場を、どうやって創出していくのかを考えていかなければいけない。
- ・出会いの場を地域の力を借りて創出していくような取組も、イベントに加えて今後必要になってくると思う。
- ・イベントも含めて、(若者に結婚に対する) 興味関心を持っていただくことが一番重要である。
- ・様々な情報がある中で、(イベントに) 参加してみたいと思えるような周知や展開があればいいと思う。
- ・独身男性と独身女性が地域にもたくさんいる。
- ・(結婚されない原因の一つに) 出会いの機会が少ないということがあがるが、男性の場合、なかなか(イベント等に) 出たがらず、対策は難しい。
- ・民間が行っているマッチングサービスはお金がかかるので、地域をベースにデジタルを活用するとなると、実際に参加できるメリットと、デジタルの良い部分を上手く組み合わせられるような工夫ができれば良い。
- ・結婚支援は繊細な話であり、従来、行政では対応していなかった。市だけでできることではない気もするので、デジタルな空間を使いつつ、デジタルの安全を確保して行うというのも一つである。

4 地域の魅力・住み良さの向上

(4-4 戦略的なシティセールス)

- ・ふるさと納税をきっかけに全国の特産品を知るだけでなく、(特産品の) PRも出来ていると感じており、今、ふるさと納税はかなり上がってきていると伺っている。
- ・ふるさと納税については、田原市も一生懸命進めていて、成果が出始めている。
- ・ふるさと納税は、シティセールスの一面もあるが、自社の商品を見つめ直して、新しい販路を開拓するという意味で、産業の活性化に大きく繋がっている。
- ・田原市に関係がある人、関係がない人を含めて、(田原市を) PRしていくのに、ふるさと納税を活用する必要もある。
- ・また、物品の返礼だけでなく、田原市を本当に応援してあげようという人に対して発信することも非常に重要である。
- ・田原市にふるさと納税をしていただいた方に、また来年も(寄附を) 続けてくれるようなフォローが大事だと思うので、そういったところを観光ビューローと市と一緒に進めていきたい。
- ・外から田原市へ観光客を呼び込むのに、サイクリングの環境整備が一番大事であると思うので、しっかりと取り組んでいただきたい。
- ・自転車は、通勤に利用するとか、普段からもっと使っていくことも良いと思う。
- ・海外の自転車レースでは、坂道の傾斜とか随分細かなデータが出されているので、田原だけではなくもっと広い範囲で(細かなデータの公開を行い)、それを繋ぐというのも良いと思う。
- ・サーフィンのことしか書いていないが、トライアスロンも盛んな街なので、(トライアスロンも) PRの中に入れていただきたいと思う。

(4-10 誰もが便利で快適なデジタル化の推進)

- デジタルは、多くの人が色々な場面で使えることが大事であり、共通サービスとして使えれば使えるほど相乗効果を生む。
- 田原市においても、市民に向けてのサービスをどういうレベルで合わせていくかということが、大事な議論である。
- また、デジタル化を行っても、結局最終的に市民の人が幸せにならないと意味がない。
- 国で示している「Well-being 指標」なども使用して、市民の人がデジタル化により幸福度がどう上がったかを指標として用いて、今後の取組を検討していくことも必要かと思う。
- 情報化の観点では、(具体的施策には)自治体 DX よりも地域 DX の価値観が入ってくると良い。
- KPI については、(調査の)継続性が不透明であることや採点方法の点数配分が国の評価と異なる可能性があるため、「全国自治体 DX 推進度ランキング総得点」を KPI にしなくて良いと思う。
- 今回挙げた個別項目を見た時に、所管課ベースで取り組んでいるデジタル化で、これまで総合戦略に出てこなかった取組をここでフォローするような書きぶりで良いと思う。
- 市民目線から見て、デジタルがとても有効に機能する取組が記載されるべきである。
- 若者や観光客にとって、デジタル構想はとても良い案だと思う。
- 情報社会の中で高齢者が取り残されないような仕組みがあると、もっと良いと思う。
- デジタル化について、校区で広報誌とかを紙ベースではなくて、(デジタルで配付する)取組をしている地域があったが、問題として、全世帯がデジタルを利用できるわけではないため、結局、(デジタルと紙の)二つの手間がかかり、役員が大変だということで止めてしまう。
- 高齢者だけではないが、(デジタルを全員が利用できるわけではないという)問題をどういうふうに解決していくかが、デジタル化の課題ではないかと思う。
- デジタルについて、年配の人と話をしていたら、スマホは持っているし、孫に写真を送ることもできると言う。そういうことの延長で、(デジタルについて)ちょっとできるようなことがあると親しみが持てるかもしれない。
- (デジタル化は)、デジタルが主目的ということではなくて、市民生活を豊かにしていくような観点から、臨んでいければと思う。